

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2973200211
法人名	株式会社メディカル・ケア・コンシェルジュ
事業所名	グループホーム ここから王寺町
所在地	〒630-8115 奈良県北葛城郡王寺町本町4丁目4番16 (電話) 0745-31-1571

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年5月2日	評価確定日	平成20年6月4日

【情報提供票より】(平成20年 4月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 18年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.45 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有() 円 <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4 月 17 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.6 歳	最低	58 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人友誼会奈良友誼病院・池原クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはJR畠田にほど近く畑や住宅、工場が点在する自然豊かな場所に位置しています。法人は近畿で介護施設の運営を展開しています。平屋建てのホームは事務所を中心に左右に2ユニット設けられ、愛犬が飼われセラピーとしての役割も担っています。玄関や庭の畑に花や野菜が植えられ、利用者が職員と共に育てています。フロアには季節の飾り付けをして、いつも季節を感じられるような配慮がなされています。家族も招待しておこなわれる毎月の誕生会や秋の収穫祭、そうめん流しなど行事も多彩です。利用者はこれまでの生活歴を活かし、それぞれに役割を持ち、自身のペースに合わせ職員と協同しながら生活しています。また日々の記録もきちんと残し、日報はイニシャルで記入するなど個人情報にも配慮しながら計画にそった状態の把握に努めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、ミーティング等で話し合われ、具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票はユニットリーダーが全員に聞き取り調査をして、それを基に管理者とリーダーで話し合い作成されました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現地点では運営推進会議の開催には至っていませんが、ホームからの再三の働きかけにより、5月に家族、役場職員、自治会代表、民生委員、職員等で開催の運びとなりました。会議ではホームの紹介、現状報告、活動内容等が話し合われることになっており、今後は3ヶ月ごとの開催を予定しているなど開催に向けた努力がうかがえます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	頻回ある来訪時に家族の意見や苦情を聞いて、必要があればその都度ミーティングで話し合い家族の意見の反映に努めています。運営推進会議の開催に伴い5月より昼食会も兼ねた家族会を年2回程度開催する予定であり、率直な意見が言える雰囲気づくりを心がけています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域的事情もあり、自治会には加入できていないもののホームの働きかけにより、近隣の方から野菜をいただいたり、ボランティアの受け入れ等も積極的に行っています。今後は運営推進会議を利用して自治会の加入も含め、ホームの催しに老人会や保育園、近隣の方々の参加を呼びかけていく予定です。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念を玄関に掲示し、地域密着型サービスの意義について日々話し合っているが、事業所独自の理念を作るには至っていない。	○	地域のなかでその人らしい生活を送るために何が大切かを職員全員で考え、事業所独自の理念をより具体的な形で作られることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に経営理念を全員で唱和し、ミーティング等でも理解と実践について話し合っている。理念を基に「自分たちの親を入れたいホーム」を目指して、日々サービスの向上に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅、畑、工場等が入り混じる地域にあり、自治会には加入できていない。ホームの働きかけにより、近隣の方から野菜をいただいたり、立ち寄ってれる人もいる。またボランティアの受け入れ等もしている。引き続き、自治会の加入も含め、ホームの催しに老人会や保育園、近隣の方々の参加を呼びかけていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については、ミーティング等で話し合わせ、食卓テーブルを低くし、食べやすい工夫をしたり、利用者と職員と一緒に同じ食事をいただくなど、具体的な改善に取り組んでいる。また今回の自己評価票はユニットリーダーが全員に聞き取り調査をして、それを基に管理者とリーダーで作成された。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現地点では運営推進会議の開催には至っていないが、ホームからの再三の働きかけにより、5月に家族、役場職員、自治会代表、民生委員、職員等で開催の運びとなった。会議ではホームの紹介、現状報告、活動内容等が話し合われることになっている。また今後は3ヶ月ごとの開催を予定している。	○	利用者のサービスの向上のためにも、第一回目が開催されることを期待する。

グループホームここから王寺町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、役場担当者に入居状況報告に出向き、相談したり、情報を得たりしている。時々は訪ねてもくれている。また役場担当者からの紹介で近隣大学よりの看護師の研修受け入れも予定している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診には、家族が2週間に1回同行されるため、来訪時には、利用者の様子や健康状態を報告している。あまり来られない家族や利用者の変化等があった時は、電話にて報告している。金銭管理については、請求書と一緒に出納の明細とレシート等の原本を送付している。	○	すべての利用者の家族に対し、定期的に様子や健康状態を書面にて報告されることが望まれる。金銭管理の報告時等に便りや写真等で報告されることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻回ある来訪時に家族の意見や苦情を聞いている。必要があればその都度ミーティングで話し合い家族の意見の反映に努めている。運営推進会議の開催に伴い5月より家族会を年2回程度開催する予定であり、昼食会を兼ねるなどして率直な意見が言える雰囲気にしたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑える取り組みとして、管理者が職員一人ひとりと話す機会を多く持ち、話しやすい雰囲気作りを心がけている。現場を離れて食事会を催すなどして日頃話にくいことも聞けるようにしている。また新しい職員は日勤帯から始めて利用者や馴染みの関係を築いてから夜勤帯に移るように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	嚙下、ノロウィルス等県主催の研修に参加している。また月に一度のミーティングにおいて伝達研修をしている。今後は全員が習熟度に応じた研修が受けられるよう計画を立て、協力歯科医から歯科衛生士を招いて口腔ケアの勉強会を開催する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	王寺町の居宅支援事業所に出向き、ホームの説明をし理解を得ている。王寺町には他にグループホームは無く、情報不足もあり同業者との交流・連携には至っていない。	○	事業所の質の確保のためには同業者との交流・連携は不可欠である。地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会、見学を通じて交流・連携を行なえるような積極的な働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方すべてに1～2週間、体験入居をお願いしている。その間は家族に協力を得たり、他の利用者や職員と一緒に過ごすことで馴染みの関係を築くようにしているため、利用者も家族も安心して入居していただいている。夜、不安になられる利用者には、職員がリビングでホットミルクなどを飲みながら眠くなるまで、じっくりと話をされるなど工夫をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争体験をはじめ、苦勞された時代の方々なので、物を大切にすることはいつも学ばせてもらっている。日々の役割や家事の中で教わることも多く、お茶の入れ方、野菜の切り方ひとつにも工夫がみられ、支えあひながらの生活を実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の希望や意向にそった支援を日々心がけている。思いをなかなか口に出来ない利用者に対しては、顔の表情やさりげないやりとりの中で思いを引き出すような支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を聞いた上で、職員が話し合って介護計画を作成している。職員は担当制を採用しており、担当職員の気付きや意見が反映された内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化があった時や新たな課題が生じた時など、家族、職員、ケアマネジャー等でカンファレンスを開催し検討しているが、定期的な見直しはおこなわれていない。また計画にそった実施については経過記録やチェックリストに記入し確認している。	○	日々の変化や家族からの新たな要望がなくても、一人ひとり介護計画と照らし合わせて、現状にずれが生じていないかを関係者で話し合っ、モニタリングを行い定期的に見直す取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人の希望による訪問理美容を月に2、3回利用している。家族が同行困難な場合の通院介助や日用品の買物、図書館利用の同行、外食等利用者のニーズにそった柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族に希望を聞き、かかりつけ医を決めている。以前からのかかりつけ医の利用者もいる。受診時には家族の同行をお願いしている。ホーム医との連携も取れており、緊急の際は携帯電話に連絡し、すぐに来てくれる体制になっている。また緊急搬送病院の希望を聞き、同意をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期についての家族の意向を聞いている。利用者の終末期はホームで出来る限りの支援をしたいと考えており、救急マニュアルも作成した。今後はかかりつけ医、家族に協力を要請し、職員間では医療に関する勉強会をしたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活歴や習慣を職員が把握しており、個人の尊厳を損なうことなく利用者に合った言葉かけを心がけている。日報などはイニシャルで記入し、個人情報については事務所のロッカーに鍵をかけて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時間に起き、朝の役割をこなしながら順番に朝食を取るなど、本人のペースに合わせた生活を送っている。自室で食事をとる利用者もいる。また毎日晩酌する利用者もあり、思い思いの生活が出来るよう支援している。		

グループホームここから王寺町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は新鮮なものを2ヶ所から配達してもらい、利用者それぞれが野菜を切る、料理を作る、配膳・下膳をする等役割を決め、職員と一緒に台所に入り手作りしている。食事は利用者・職員が同じテーブルで会話をしながら一緒にいただくなど共に楽しむ支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が週3回入浴できるよう支援している。時間帯は午後を予定しているが、夏場は夜入られる利用者もあり、希望があれば朝の入浴も可能である。拒否傾向のある利用者に対してはタイミングを見計らい、さりげない声かけで対応している。また足拭きマットは水虫予防のため、利用者自ら作ったマットをそれぞれ使用している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベンチの組み立て、花を生ける、野菜作り等以前の仕事を生かした役割や、調理、洗濯、掃除等得意な役割を個々に持って生活している。また皆で失禁予防体操や指体操をして体を動かしたり、庭でさんまを焼いたり、そめん流しをして楽しんでもらっている。毎月の誕生会は皆楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日課となっており、午前中に行なわれている。利用者の希望に合わせて茶菓子や日用品の買い物、ドライブ、お花見、外食等頻繁に外出している。出たがらない人にも声をかけ、食材の買い物に誘うなど支援している。また王寺町の文化祭やいつも来訪してくれるボランティアグループのショーを観に行ったりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム近くは交通量の多い国道が走っており、裏側は柵の無い線路が横切っているなど、危険箇所も多いため、安全の為にやむを得ず鍵を掛けている。家族には説明し同意を得ている。利用者が外に出たような時は、職員も一緒に出て散歩等の対応を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1月のミーティングにおいて、昼、夜を想定した非難のシミュレーションは行なった。その際、避難場所の確認や誘導方法について話し合われたが、実際の訓練はなされていない。日頃から近隣の方々には協力を呼びかけている。また消防署にも訓練についての相談はしているが、実施には至っていない。	○	一度は実際に消防署などの協力を得て避難訓練を実施し、地域の方々に参加を呼びかけ、一緒に訓練を行うなど、運営推進会議を通して働き掛けを行う事が望まれる。

グループホームここから王寺町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や一日の水分摂取量を総量で記入する等、細かい記録を残し状態の把握に努めている。利用者の状態に合わせて刻み食などの対応もしているが、見栄えや色合いに配慮し食欲が落ちない工夫がなされている。献立は1週間ごとに管理者が職員と相談して作成しているが、専門家の意見が反映されていない。	○	役場担当者に相談するなどして定期的に保健師や栄養士によるチェックやアドバイスを受けられる体制の検討が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や庭の畑には季節の花や野菜が植えられ、利用者と職員が世話をしている。愛犬を飼っており、皆から可愛がられている。テーブルの上には花を、フロアにはクリスマスツリー、雛飾りや五月人形等を飾り、いつも利用者に季節を感じてもらえる工夫がなされている。また通ると点く照明や開けると鳥のさえずりが聞こえるリネン庫など工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットと洗面台、エアコン付きの居室にベッド、家具、テレビ、仏壇や位牌、置物、家族の写真等馴染みの品々を持ってきてもらい、居心地よく暮らせるよう配慮している。またドア入り口には自作の作品が飾られ、それぞれ違った表札が掛けられていて、自室がわかりやすいよう工夫されている。		